

受験学力向上のための授業形態について

—協働的学習と教授型学習の比較—

理科 林田 香織

科学技術の進歩は近代社会発展において重要な役割を果たしてきた。今後、複雑化する社会の中でより多角的に物事をとらえ、他者と協働し、新たな創出を行う人材の育成が求められている。そのために、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現が求められているが、主体的・対話的な授業は受験学力向上には不向きとの指摘もある。本研究において、対話的な活動を取り入れた協働的学習と、従来型の教授型学習の両方を行い、生徒が実感する受験学力との関係について考察した。

<キーワード>協働的学習、教授型学習、受験学力

1. はじめに

大学入学者選抜では、知識の暗記・再生や暗記した解法パターンの適用の評価に偏りがちであること、一部の総合型選抜入試や推薦入試においては、いわゆる学力不問と揶揄されるような状況が生じていることなどを背景として、高等学校における教育が、小・中学校に比べ知識伝達型の授業にとどまりがちであることや、卒業後の学習や社会生活に必要な力の育成につながっていないことなどが指摘されている（平成 29 年 12 月 21 日中央教育審議会）。しかし、大学入試センター試験においては、「知識・技能」を問う問題が中心であったが、大学入学共通テストでは、「思考力・判断力・表現力」をより評価できるような出題形式が増えており、受験対策としてもより深い学びの実現が求められるようになった。

そこで対話的な活動を取り入れた協働的学習と、従来型の知識伝達式の教授型学習の両方を行い、生徒が実感する受験学力との関係について調査した。

2. 研究方法

(1) 調査方法

- 1) 対象生徒 3 年 2 組、3 年 3 組文系生徒（男子 9 名、女子 36 名、計 45 名）
- 2) 対象授業 環境基礎（3 単位）
- 3) 評価方法 Classi によるアンケート 12 月 20、21 日 42 人が回答

(2) 協働的学習の実践

- 1) 期間 2023 年 4 月～10 月（2 学期中間考査）
- 2) 教材 カテゴリー別 大学共通テスト対策問題集 化学基礎・生物基礎
- 3) 方法 3 人グループを作成
教員が範囲、時間を設定
生徒がグループ内で担当を決め 3 時間を 1 セットとして授業を構成
 - ・ 1 時間目 個人学習、解説準備
 - ・ 2 時間目 グループワーク、担当した問題をグループ内で解説・共有

(3) 教授型学習の実践

- 1) 期間 2023 年 10 月（2 学期中間考査）～12 月
- 2) 教材 自作プリント（センター試験、共通テストの過去問題を中心に作成）
- 3) 方法 個人で問題を解いた後、周囲の生徒と共有、確認
教員が生徒を指名して解答を確認しながら解説

3. 結果

(1) 協働的学習について

グループワーク形式の授業は好きかの問いに、87%の生徒が、好き、どちらかというが好きと答えており、嫌いと答えた生徒が 0 名であることから、協働的学習に対し生徒が好意的に捉えていることがわかる。また、友達に教えるために自分が沢山準備しなくてはいけないと、主体的に学習に取り組んだことが伺える。

グループワーク形式の授業によって受験学力が付いたと思うかの問いに、83%の生徒が、思う、どちらかというと思うと答えており一定の成果があったと考えられる。

(2) 教授型学習について

解説形式の授業は好きかの問いに、81%の生徒が、好き、どちらかというが好きと答えており、嫌いと答えた生徒が 0 名であることから、グループワーク形式よりは少ないものの教授型学習に対し生徒が好意的に捉えていることがわかる。

解説形式の授業によって受験学力が付いたと思うかの問いに、88%の生徒が、思う、どちらかというと思うと答えておりグループワーク形式の授業よりも受験学力が付いたと考えていることが分かった。

4. 考察

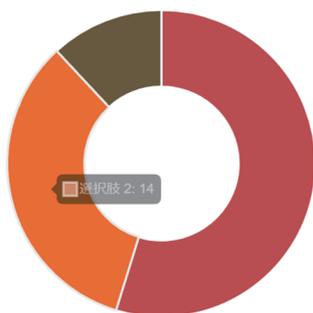
協働型学習を通じてアウトプットを意識したインプットによってより深い学びを得ることができたと感じる生徒おり、実際に模試の場で役に立ったと答えていることから、受験学力の向上に協働学習が一定の成果を挙げると考えられる。しかし、自分たちで解説を考えるので、より深い学びにはつながると思うが、とても時間がかかるので、時間が限られている授業にはあまり向かないのではないかとの回答もあり、限られた時間の中で効率よく組み入れる工夫が必要である。また、解説型学習は協働型学習と比べ好意的に捉える生徒が少ないが、受験学力が付いたと答える生徒は多く、従来の解説型授業が受験学力向上に役立つと評価されたことから、生徒が考える受験学力を付ける授業にあるように解説型学習と協働型学習を組み合わせた授業が今後必要になってくると考える。

5. 参考文献

- ・高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 総則編 平成 30 年 7 月
- ・平成 29 年度小・中学校新教育課程説明会（中央説明会）における文科省説明資料（mext.go.jp）
- ・共通テストの役割 | 独立行政法人 大学入試センター（dnc.ac.jp）

Q1 グループワーク形式の授業は好きですか。

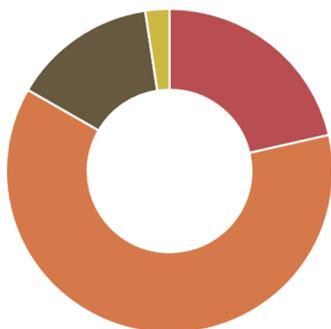
未回答を含める **回答数 42**



- ・友達に教えるために自分が沢山準備しなくてはいけないから。(どちらかという好き)
- ・分からないところを諦める気持ちにならなくなるから。(好き)
- ・自分が理解できてるかを説明できるかどうかで確認できるから。(どちらかという好き)
- ・グループワークじゃない授業の時よりも予習を頑張れたから。(どちらかという好き)
- ・一人でやりたいから。(どちらかという嫌い)

Q2 グループワーク形式の授業によって受験学力が付いたと思いますか。

未回答を含める **回答数 42**



- ・自分が担当した問題がテストに出ると理解が深いので問題を解くことが出来たから。(どちらかというと思う)
- ・考える力はいったけれど正解できるかは分からないから。(どちらかというと思わない)
- ・模試の化学基礎の点数が伸びた。(どちらかというと思う)
- ・説明したり、分からないところを聞いたりしてより理解が深まるから。(思う)
- ・特に、計算問題の解法、グラフの読み取り方において、技能が向上したと感ずることができました。(思う)
- ・模試を解いてる時に仲間が言っていたことを思い出したことがあるから。(どちらかというと思う)



Q3 解説形式の授業は好きですか。

未回答を含める **回答数 42**



● 選択肢 1	15人(35.71%)	好き
● 選択肢 2	15人(35.71%)	どちらかという好き
● 選択肢 3	12人(28.57%)	どちらかという嫌い
● 選択肢 4	0人(0%)	嫌い

- ・グループワーク形式に足りてない質の解説を受けることができるから。(好き)
- ・問題以外の知識も教えてもらえる。(好き)
- ・少しペースが早かった部分があって、辛い所もあったから。(どちらかという好き)
- ・聞いているだけだと飽きちゃうから。分かったつもりになりやすいから。(どちらかという嫌い)
- ・難しい問題の時は先生の解説の方がわかりやすいから。(好き)

Q4 解説形式の授業によって受験学力が付いたと思いますか。

未回答を含める **回答数 42**



● 選択肢 1	15人(35.71%)	思う
● 選択肢 2	22人(52.38%)	どちらかという思う
● 選択肢 3	5人(11.9%)	どちらかという思わない
● 選択肢 4	0人(0%)	思わない

- ・問題を解くのを繰り返すことによって力がついてると感じたから。(思う)
- ・解き方などはグループでやっていた時よりも丁寧にももらえるから。(どちらかという思う)
- ・分からない問題が出た時に本当に分からない部分が解説されず、どんどん進んでいってしまっていていかれるから。(どちらかという思わない)
- ・正しい知識を得ることが出来たから。(思う)

Q5 あなたが考える受験学力をつける授業はどのようなものですか。

- ・グループワークと解説が混ざった授業。
- ・問題演習をやった上で答えをみんなで確認しながら先生の解説を聞く授業。
- ・グループワークなどで基礎知識を復習、解法を把握した上で先生が補足の解説をしてくれる授業。
- ・グループ活動と解説形式を交互にやったり、みんながわかってなさそうなところだけ解説をする授業。
- ・生徒が主体的に学んでいる上で、その学びを補助するような授業。
- ・一人一人苦手なところが違うので集中的に勉強しようと思ったら全体での授業は難しいので今は考えつかない。